

岩手・宮城県際ネットワーク

－ 令和4年10月3日発行 － (担当公所：岩手県南広域振興局) (第174号)

●編集・発行 地域づくり団体ネットワーク岩手・宮城県際交流会事務局

岩手県	県南広域振興局経営企画部	0197-22-2812	https://www.pref.iwate.jp/kennan/index.html
岩手県	沿岸広域振興局経営企画部大船渡地域振興センター	0192-27-9911	https://www.pref.iwate.jp/engan/ofuna_chiiki/index.html
宮城県	北部地方振興事務所栗原地域事務所地方振興部	0228-22-2195	https://www.pref.miyagi.jp/site/nh-khsgsin-e/index
宮城県	東部地方振興事務所登米地域事務所地方振興部	0220-22-6123	https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-e/
宮城県	気仙沼地方振興事務所地方振興部	0226-24-2593	http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-e/

圏域情報

◆◆◆◆ 岩手県 県南広域振興局経営企画部 ◆◆◆◆

オープンファクトリー五感市が開催されます。

11月4日(金)から6日(日)の3日間、参加事業者20社の工房等で「オープンファクトリー五感市」が開催されます。

オープンファクトリー五感市とは、岩手県南地域(一関市・平泉町・奥州市)にある伝統工芸をはじめとした地域産業のものづくりの現場を一般の方に見学していただくイベントです。

普段は見られない工場の雰囲気や熱量を肌で感じ、商品の魅力、ものづくりへの関心と知識を深めていただける内容です。製作体験や五感市 Instagram フォトコンテスト、五感市スタンプラリーといった企画も用意しています。

県外の方はもちろん、県内の皆様にも、改めてこの地域には素晴らしい産業があるということ「五感」を感じていただき、現場の雰囲気を楽しんでいただきたいと思います。



五感市 HP → <https://gokan-ichi.com/>

■お問い合わせ先

県南広域振興局 経営企画部
産業振興室 産業振興課

TEL : 0197-48-2421



©2013 岩手県 ケロ平
designed by センウェル

陸前高田市立博物館が開館します！！



陸前高田市立博物館が、かさ上げされた中心市街地に再建され、令和4年11月5日(土)に待望の開館を迎えます！

市立博物館は、東日本大震災により同じく全壊した「海と貝のミュージアム」と一体的に再建され、昨年7月に完成しました。

これまで、館内の空気環境が展示資料へ与える影響を低減させる、いわゆる「枯らし期間」中として、定期的に環境測定を実施してきましたが、現在は、基準値内となり安定したことで、待望の開館日が決定しました。

館内では、海と貝のミュージアムのシンボルとして親しまれていたツチクジラのはく製「つつちい」を始めとして、約7,300点もの資料が展示されます。津波によって被災した資料が修復されるまでの過程を紹介するエリアや、資料の安定化処理作業を公開するエリア、陸前高田市の自然や文化に触れられるエリアなども設けられます。

また、施設は、市内の商業施設「アバッセたかた」の南側（県道38号線を挟んで向かい側）に位置しています。

陸前高田市の歴史や文化を体験・学習する場であり、震災の記憶を後世に伝えていく場であるとともに、市の新たな観光の場として、多くの市民や観光客が訪れることが期待されます。

ぜひ一度足を運んでみてください！

■一般公開（開館日）

令和4年11月5日（土）

テープカット：午前8時50分～

開館：午前9時～

■開館時間

午前9時～午後5時（ただし、最終入館時間は午後4時30分までとする。）

※ 休館日：月曜日、12月29日～1月3日

■入館料

無料

■お問い合わせ先

陸前高田市立博物館

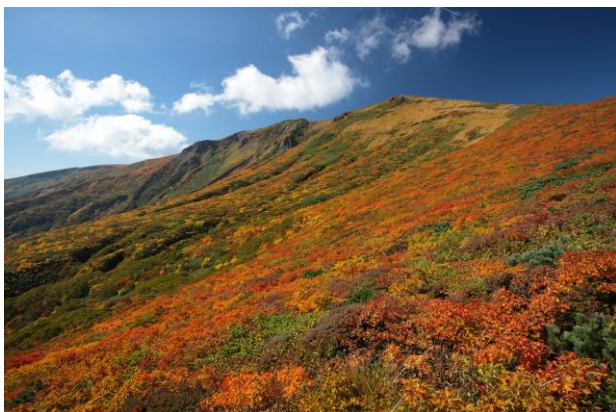
（陸前高田市高田町字並杉 300-1）

TEL：0192-54-4224

栗駒山紅葉シーズン到来

宮城・岩手・秋田の三県にまたがる栗駒山は、標高が1,626mで、ナナカマドやブナ、カエデなどの落葉広葉樹林が広がり、新緑、紅葉ともに美しい光景が広がります。

特に、「神の絨毯」とも称される紅葉は、9月中旬から10月中旬にかけてがシーズンで、まさにいまが、その見頃を迎えています。



宮城県側からの登山コースは6つあり、初心者の方は「中央コース」、登山時間を長めに確保できる方は「湯浜コース」、大地森から御室に向かう「大地森コース」など、コースを選んで栗駒山を楽しむことができます。

なお、「いこいの村栗駒」跡地の臨時駐車場から、「いわかがみ平」駐車場までの区間は、10月16日（日）までの間、渋滞対策として終日マイカー規制が行われます。

午前5時から午後3時まで、同区間をシャトルバスが運行しますので、そちらをご利用ください。

安全に、そして楽しく栗駒山を満喫していただけるよう「栗駒山トレッキングMAP」を、栗駒山麓ジオパークビジターセンターなどの市内施設で御用意しています。



「栗駒山トレッキングMAP」は下記の当所HPからもダウンロードできますので是非御利用ください。

https://www.pref.miyagi.jp/site/nh-khsgsin-e/kanko_brochure.html

■お問い合わせ先

宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所
地方振興部

電話：0228-22-2195

E-mail:nh-khsinbk@pref.miyagi.lg.jp

「おかえりモネ展」今月がラストチャンス！

NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の舞台となった登米市内の2会場で「おかえりモネ展」が開催されています。展示する内容は会場ごとに異なりますので、どちらも見て回っていただくのがお勧めです。

長沼フットピア公園の会場は、2か所に分かれており、ふるさと館では、主要キャストの等身大パネルや登米編で使用された小道具、ポスター撮影に使用された衣装が展示されています。ふるさと物産館では、主要キャストのサインパネルを見ることができます。



とよま観光物産センター遠山之里では、森林組合の小道具、登場人物相間図や撮影風景の写真パネルなどが展示されています。



ここでしか見られない貴重な展示を見ることができるのは今月末までになっていますので、モネの新たな旅立ちの日々を感じてみてはいかがでしょうか。

■開催場所

長沼フットピア公園

とよま観光物産センター遠山之里

■期間

令和4年10月31日（月）まで

■開館時間

午前9時から午後4時30分

■入場料

無料

■お問い合わせ先

登米市まちづくり推進部観光シティプロモーション課

電話：0220-23-7331

道の駅「さんさん南三陸」グランドオープン！



令和4年10月1日(土)に宮城県南三陸町に道の駅「さんさん南三陸」がグランドオープンしました。

■道の駅「さんさん南三陸」について

東日本大震災で壊滅した志津川地区の中心市街地では、平成29年3月に本設となる「南三陸さんさん商店街」がオープン。この商店街と一体になる「道の駅」の誕生で、震災復興祈念公園～中橋～「道の駅さんさん南三陸」一帯は、新たな観光・交流拠点となりました。

① 震災伝承施設「南三陸311メモリアル」

東日本大震災で被災した南三陸町の人々の体験を伝えると共に、防災・減災について自分ごととして考えるきっかけを提供する、震災伝承ラーニング施設です。交流スペースと2階展望デッキ(高さ8m)、有料展示スペースからなる震災伝承施設です。

② 商業施設「南三陸さんさん商店街」

燦々と輝く太陽のように、笑顔とパワーに満ちた南三陸の商店街にしたい、というコンセプトのもと、28件のテナントが軒を連ねています。

③ 観光交流施設「南三陸ポータルセンター」

一般社団法人南三陸町観光協会の拠点です。南三陸町のツアーデスクとして、観光・物産情報の発信を担います。

④ 交通拠点施設「JR志津川駅等」

JR志津川駅が設置され、BRTの発着所となるほか、高速バス、町民バスの停留所、タクシープールもおかれ、まさに交通網および交通情報発信の拠点となります。

■オープニング展について

発災直後からの住民たちの体験エピソードをまとめたバナー展示と津波に襲われた当時の証言映像展示を行います。

テーマ「あの日、生と死のはざままで」

会期10月1日(土)～令和5年2月14日(月)

■建築について

建築家の隈研吾氏に、南三陸町志津川地区中心市街地のグランドデザインを依頼してきました。「道の駅さんさん南三陸」は、ふんだんに地元産の南三陸杉が使われたダイナミズムを感じさせる建物となり、同じく南三陸杉が使われた中橋と調和し、南三陸町の新たなランドマークとなりました。

みなさん、ぜひお越しください！

■住所 南三陸町志津川字五日町200-1

■休館日 火曜日、年末年始

■お問い合わせ先

一般社団法人南三陸町観光協会
電話：0226-47-2550

イベント情報

◆◆◆◆ 岩手県 県南広域振興局経営企画部 ◆◆◆◆

一関・平泉バルーンフェスティバル 2022

10月14日（金）から16日（日）の3日間、一関水辺プラザで「一関・平泉バルーンフェスティバル 2022」が開催されます。

国内最高峰の競技会である「熱気球ホンダグランプリ」の一つであり、国際大会で活躍されるパイロットらによる競技飛行や、一般の方も参加できる熱気球教室や係留体験搭乗が行われます。

山や谷、丘陵地帯が広がる中、秋の紅葉の上を熱気球が飛びます。

全国を回る大会ですが、開催地ならではの地形と空域で行われるため、他の大会・会場では味わえない面白さがあります。

夜にはバルーンイリュージョンが開催され、音楽に合わせて色鮮やかに浮かび上がり、一斉に点火した景色は圧巻です。



詳細については、以下のHPをご覧ください。

<https://www.honda.co.jp/balloon/schedule/ichinoseki/>

■お問い合わせ先

一関・平泉バルーンフェスティバル

実行委員会事務局

一関市観光物産課

TEL：0191-21-8413